

第70回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：令和8年4月23日（木） 14：00－16：00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

常田座長、杉田委員、関委員、永田委員、野村委員、山崎委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

風木局長、渡邊審議官、三木参事官、樋口参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省宇宙開発利用課

梅原課長

文部科学省研究開発局戦略官（宇宙利用・国際宇宙探査担当）付

迫田戦略官

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所（ISAS）

藤本所長

高島プロジェクトマネージャ

和田主研究開発員

亀田特任教授

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構国際宇宙探査センター

松浦理事

山中センター長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）有人宇宙技術部門

小川部長

4. 議事要旨

(1) R8当初・R7補正予算の宇宙科学予算に関する報告

R8当初・R7補正予算の宇宙科学予算に関する報告について、資料1を用いて、文部科学省から報告があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（○：意見等）

- 国際的な物価上昇が国内以上に大きく、ミッションの系譜にも影響を与える中で、高市政権における今後の当初予算・補正予算の在り方に注目。
- 航空・宇宙は成長戦略17分野の1つで議論されているように重要。実施において、JAXAの強靱化は課題であり重要。今回の当初予算の増加は評価。
- 探査分野は宇宙政策の今後10-20年を決める。アルテミス計画がある中で、今が非常に重要な時期。
- イグニッション計画への対応を進めるに際して、国際協力で行う部分と、日本として取り組む部分について議論していきたい。
- MMXへの国際的な期待は高い。MMXは打上げスケジュールが厳しいため、失敗の原因究明・再発防止を早期に行った上、機会を逃さずH3での打上げに期待。

○今後の人材育成を戦略的に行うための予算も重要。

(2) 宇宙技術戦略の改定に関する報告

宇宙技術戦略の改定に関する報告について、資料2を用いて、内閣府宇宙開発戦略推進事務局から報告があった。

委員からは、以下のような意見があった。

(○：意見等)

○毎年のローリングが重要。

○低軌道と月面は連続性を持つべき。今後アルテミス計画の進捗を見据え、月面における科学・産業において、いかにエコシステムを作っていくかの観点や、シーズ・ニーズのタイムリーなマッチングが重要。

○大型の回収・往還技術は、低軌道だけでなく有人宇宙輸送にもつながっていく技術である。

○月面実証の需要、月面・低軌道における実証を進めつつ、月面輸送コストをふまえると、低軌道での宇宙飛行士訓練・保険等エコシステム作りのトライアルを進めていくべき。

○小型機に適したミッション管理・審査の在り方について、今後もしっかり議論できるよう、リードしていくべき。

○品質保証をどう考えるかの問題は、民間の参入障壁を下げる観点でも重要であり、今後検討していくべき。

(3) Habitable Worlds Observatory (HWO) 計画への参画を見据えた紫外線観測技術の開発状況について

Habitable Worlds Observatory (HWO) 計画への参画を見据えた紫外線観測技術の開発状況について、資料3を用いて、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)から報告があった。

委員からは、以下のような意見があった。

(○：意見等)

○観測は、日本が提案する近赤外コロナグラフ・紫外線分光装置の両方の方法でできることが理想だが、リソース限られている中でこういったスケジュールを進めるか、宇宙研でも議論して報告いただきたい。

○装置で貢献できると日本のコミュニティの意見通りやすくなるため、ぜひ進めていただきたい。

(4) RAMSES と DESTINY+ のアポフィス探査について

RAMSES と DESTINY+ のアポフィス探査について、資料4を用いて、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)から報告があった。

委員からは、以下のような意見があった。

(○：意見等)

- HTV の発展は重要、今後国際競争力を高めていくため 2029 年に観測が実現されたとき、世界的なニュースになる可能性があり、計画的な広報・メディアアウトリーチが重要。本プロジェクトがその最初の情報発信となることに期待。
- DESTINY+ と RAMSES との運用面でのシナジー創出が重要。
- RAMSES との協力は、単なるデータ提供にとどまらない、日本コミュニティにとってのリターンが得られる仕組みに期待。

(5) NASA の動向含むアルテミス計画に関する報告

NASA の動向含むアルテミス計画に関する報告について、資料 5 を用いて、文部科学省から報告があった。

委員からは、以下のような意見があった。

(○：意見等)

- ゲートウェイ計画が一時停止になったが、ヨーロッパへは大きなインパクトがあると認識、我が国においても培ってきた技術を他へしっかり活用していくべき。
- 新アルテミスⅢにおいて、新たに我が国の機器提供の機会があれば。
- 月面原子力発電について、米国は中国との競争を視野に入れたものと認識、日本はエネルギーのベストミックスも踏まえ、建設等様々な分野での貢献を検討するべき。
- 有人と圧ローバへの期待・責任が大きいことを再認識、イグニッションによる技術開発上・予算への影響は今後も注視していきたい。
- どうしてもアメリカに振り回される現状、無人のサンプルリターンができると、今後独自性を打ち出していける

以上